

特別の教科 道徳 の実施～「考え、議論する道徳」への転換

長万部小学校長 長 瀬 雅 一

将来の変化を予測することが困難な時代を迎え、よりよい社会と幸福な人生を自ら創り出していくことが重要となります。そのための必要な資質・能力を養うために、道徳教育はこれまで以上に重要な役割を果たすことが期待されています。これまでの道徳の時間については、「読み物の登場人物の心情理解のみに終始する授業」「決まった答えを確認する授業」が多いという課題も指摘もされてきました。

こうした中、平成 27 年 3 月に小学校及び中学校の学習指導要領等を改正し、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の要であるこれまでの「道徳の時間」が、新たに「特別の教科 道徳」と位置づけられることとなりました。

道徳教育の目標は、「自己の（人間としての）生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として、他者とともによりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」ことにあります。この目標を実現するためには、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の子供が自分自身の問題としてとらえ向き合う、「考え、議論する道徳」への質的な転換を図るため、各学校において、児童生徒の実態に応じて、多様な創意工夫を生かした授業づくりが進められます。「特別の教科 道徳」は、小学校ではこの 4 月から、中学校では、平成 31 年度からの全面実施となります。以下、ポイントをご紹介します。

○ なぜ、「道徳の時間」が「特別の教科 道徳」（道徳科）に？

道徳の教科化にあたり、次のような現代の課題について考える機会が求められました。また、多くの友だちと議論を重ね探求し、納得する自分なりの答えを見つけだそうとする力を伸ばすためです

- ① いじめの問題解決への対応を充実させたい。
- ② 自分のよさに気付いたり、社会への関心を高めさせたい。
- ③ 正解が 1 つではない様々なことについて互いに尊重し合ってほしい。
- ④ 情報通信技術の発達に伴う人間関係構築のあり方について、社会全体で学んでほしい。
- ⑤ かつてないスピードで変化する社会に、自らの力で対応してほしい。



○ 道徳科の授業は、今までの「道徳の時間」の授業と何が変わりますか？

- ① 国語や算数と同様に、国から教科書が無償給与されます。
- ② 自分ごととして今まで以上に**考え**、話し合い（**議論**し）、その考えを**深める**学習が増えます。
- ③ 答えが 1 つではない物事について、互いの意見を尊重し合う活動を通して、子供たち一人一人が自分自身の問題として捉え、向き合う場面が増えます。
- ④ 子供たちのよい点を認め、励ます中で、進歩の状況などを評価し、文章でお知らせします。

○ 保護者は道徳科にどのように向き合えばよいですか？

- ① 子供たちに自分自身の考えを持っていることのよさを感じさせていただきたいと思います。
- ② 学校や地域での話題をもとに、子供たちと道徳的な価値などについて話し合う機会をもち、互いの考えを認め、励ましてください。
- ③ 道徳科の授業参観等に参加し、子供とともに学ぶことも考えられます。

<参考> 文部科学省に道徳教育の特設ページがあります。御参照ください。HPアドレス<https://doutoku.mext.go.jp/>

今年度も、保護者・地域の皆様のご支援・ご協力のもと、長万部町教育研究所員一丸となり、学校教育の充実を図ってまいります。どうぞよろしくお願いいたします。